

第二十五利丸は、平成14年(2002年)9月に捕鯨船としての役割を終え、同年12月に共同船舶株式会社から下関市に寄贈され、平成17年(2005年)から下関漁港開港近くに係留・展示し、一般公開を行いました。公開が終了する平成24年度末までに、延べ13,692名の方に来船していただきましたが、建造から50年以上経過し、船体も著しく老朽化してきました。

下関市では、新たな形でこの船を次世代へ継承するため、第二十五利丸に備え付けられていた、捕鯨砲、プロペラ、錨(アンカー)及び風向風速計について、下関市合併10周年記念事業として下関市観音崎町のアンカー広場に設置し、その功績を顕彰することといたしました。

平成27年3月吉日

下関市長 中尾 友昭

●写真・資料提供

(一財)日本鯨類研究所
共同船舶(株)
サンセイ(株)
下関市立大学鯨資料室
石川 創 様
中村和夫 様
和田 博 様

●作成

下関市農林水産振興部水産課

捕鯨船「第二十五利丸」の軌跡



下関市



南氷洋での調査捕鯨の様子



進水式の様子（昭和37年7月19日）



南氷洋を行く第二十五利丸

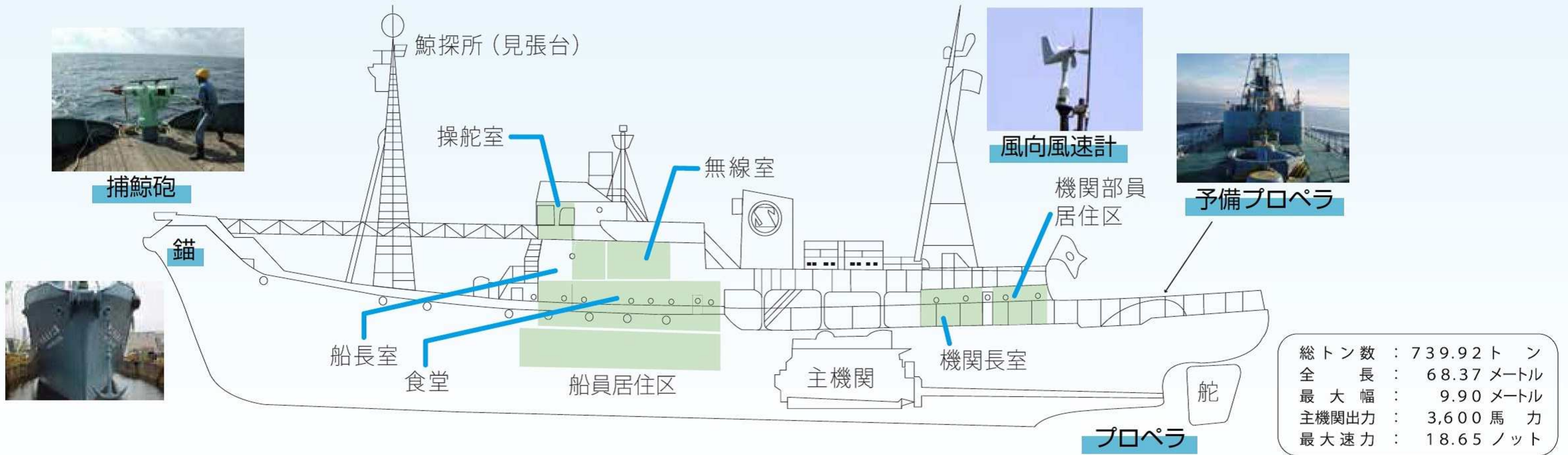
捕鯨船第二十五利丸は、旧大洋漁業株式会社（現 マルハニチロ株式会社）の捕鯨船として昭和37年（1962年）に下関市彦島田の首にあった林兼造船株式会社第三工場で作られ、同年7月19日に進水した下関生まれの船です。捕鯨船は鯨を専門に捕獲するための特殊な船で、捕鯨砲や見張台等の特殊な装備を備え付け、高速で鯨を追いかけるために大型エンジンを搭載し、重心の低い独特な船型をしています。

本船は、総トン数739.92トン、全長68.37m、主機関出力3,600馬力、速力は試運転時最大18.65ノットで同型船中最大の速力を記録し、世界で最も速くて美しい捕鯨船と呼ばれていました。

利丸という船名の由来は、旧大洋漁業株式会社の前身である株式会社林兼商店を設立した中部幾次郎の三男で、旧大洋漁業株式会社の副社長や林兼産業株式会社の社長を務めた、中部利三郎から命名されたと言われてしています。

第二十五利丸は、商業捕鯨及び調査捕鯨として、下表のとおりこれまでに南氷洋へ40回連続、北太平洋へ26回出漁しています。

海域	目的	期間	回数	所属会社
南氷洋	商業捕鯨	第17次 (1962/1963年) ~ 第30次 (1975/1976年)	14	大洋漁業株式会社
		第31次 (1976/1977年) ~ 第41次 (1986/1987年)	11	日本共同捕鯨株式会社
	調査捕鯨	第1次 (1987/1988年) ~ 第15次 (2001/2002年)	15	共同船舶株式会社
北太平洋	商業捕鯨	第12次 (1963年) ~ 第24次 (1975年)	13	大洋漁業株式会社
		第25次 (1976年) ~ 第28次 (1979年)	4	日本共同捕鯨株式会社
	調査捕鯨	第1次 (1994年) ~ 第9次 (2002年)	9	共同船舶株式会社



総トン数：739.92トン
 全長：68.37メートル
 最大幅：9.90メートル
 主機関出力：3,600馬力
 最大速力：18.65ノット